

課題番号 : 24指4

研究課題名 : カンボジアにおける医療従事者と妊産婦の関係性変化および正常分娩の理解の促進が
出産／出生ケアに与える影響

主任研究者名 : 松井三明

キーワード : 科学的根拠に基づいた医療、助産ケア、産科手術、医療介入

研究成果 :

本研究は、カンボジアの第一次（保健センター）および第二次（リファラル病院）医療施設で、(i) 医療従事者が権威性をかざさずにサービス利用者との関係性をできるだけ対称化し、(ii) 正常な妊娠／出産／出生の理解を深められるようになるためのトレーニングとスーパーヴィジョンが、医療施設における医療介入実施の適正化と医療従事者と利用者の妊娠・出産に対する心理への影響、またそれに伴う妊産婦と新生児の健康への影響を検証することを目的としている。

妊産婦／新生児死亡の大半は分娩周辺期の産科合併症に起因する。これに対処する目的で、輸血、帝王切開・吸引分娩などの産科手術、抗生物質・抗けいれん薬・子宮収縮薬の注射による投与から構成される「緊急産科／新生児ケア」が開発途上国で推進されている。これら医療介入は救命・救急の手段として必須であるが、それが有効となるためには、異常の発見と対処が適切に行われることが前提である。しかしながら、本来は生理学的な過程である分娩が正常な状態でどのように進行するのか医療従事者が十分に把握していないため、分娩経過に医療従事者が不安を覚え、結果として安易の医療行為の実施が散見される。また一般に医療従事者は社会的地位が高く、受療者に対し権威的な態度で接することがあり、なかには言語的／身体的虐待を伴う場合もある。そのため医療者と受療者とのラポール形成が阻害され、結果として医療が適切に行われず、また不必要な医療が不適切な方法で実施されることとなる。「緊急産科／新生児ケア」は死亡削減に必須ではあるが、現状では介入の量的拡大は熱心に実施されているものの、過剰かつ不必要な介入が行われている可能性を吟味する議論は乏しい。効果の高い母性保健プログラム実施には、医療介入が及ぼす悪影響を定量的に把握し、どのようにしたら介入を適正化することができるかを同時に検討する必要がある。

この研究により、これまでに注目されていなかった医療従事者と利用者との関係性、および医療従事者の知識と態度の変化が、医療サービスの質と量、およびそのインパクトに与える影響を評価することができる。また、医療従事者と利用者との関係性に変化を与えるという個別性の高い、したがって一般的には公衆衛生的施策にはなじみにくいと考えられている介入を面的に実施する効果を測定し、同時にその実施のために必要とされる医療資源と医療サービス環境について記述することができる。

本研究は、当初はカンボジアの地方部（コンポンチャム州、コンボントム州、スヴァイリエン州、プレイベン州）において実施することを計画していたが、介入研究を行う松井分担分は首都プノンペン市の保健センターを対象として、また観察研究のみを行う野口分担分はコンポンチャム州の州病院で実施することに変更した。

さらに、「助産能力の強化」という意味、つまりどのような概念枠組みのもとで、どのようなことが実施されているかを研究の中で明確にするため、実施されている助産能力強化プログラムのコア・トレーナーとして活動している医療従事者へのインタビュー調査を実施した。その結果、助産師としての自己認識のもと、科学的根拠を参照しつつ対象者の情報を統合して判断し、個別的なケアを実施するという助産師の内的過程を展開することを目指すことが共有され、そのための教育プログラムが実施されていた。具体的な助産能力の強化としては“women friendly care”、クメール語では「女性を愛するケア」が中心概念とされていた。この「女性を愛するケア」という意味を分析した結果、仏教的教義が根底にあることが明らかになった。この内容については、仏教関係者に意味を確認した。

課題番号 : 24指4

研究課題名 : カンボジアにおける医療従事者と妊産婦の関係性変化および正常分娩の理解の促進が
出産／出生ケアに与える影響

主任研究者名 : 松井三明

分担研究者名 : 松井三明

キーワード :

研究成果 :

本分担課題では、前述したトレーニングとスーパーヴィジョンから構成される介入は、対象地域内の保健センターのうち分娩を一定数以上取り扱う施設を無作為に2群にわけ、介入実施する群と対照群を分けることで効果を測定する。

プノンペン市内保健センターのうち、分娩数が多い10カ所を各5カ所ずつ2つの群とした。またそれに先だつてすべての対象保健センターを訪問し、施設および機材の状況と、分娩数、出産ケアに関わるスタッフ数およびスタッフの特性、出産スタッフ一人あたりの分娩数を調査した。

さらに介入の内容を調整することと、今後の予備調査のふたつを目的として、調査員による国立母子保健センター(NMCHC)での直接観察調査を2-3月にかけて実施した。これによって直接観察の際の記録用紙および記録項目を更新し、さらに観察項目の加除を行った。

最終年度には12月までの間に継続して介入を行う。さらに1-3月に介入群と対照群の両者で直接観察と医療記録調査により、医療介入の実施率、医薬品の利用状況、医療従事者と受療者の関係性、患者満足度、および出産時と新生児の合併症発症率・症例死亡率を測定する。これらの測定によって、これまでに注目されていなかった医療従事者の知識と態度の変化が、医療サービスの質と量、また保健指標に与える影響を評価する。

医療介入の実施は、WHOが1998年に出版したCare in Normal Birth - a practical guideに沿って、カンボジアの医療施設で頻繁に実施されている出産経過中および分娩直後の医療介入を抽出し、直接観察、質問票調査および医療記録調査によって量的に把握する。医薬品使用状況は医療記録および医療施設における消費量・請求量から量的に把握する。

保健医療指標は、分娩所要時間、合併症発生率、入院必要期間、産科手術実施率、出生時の児の状態、転帰等を医療記録より把握する。

解析は、介入群と対照群において、医療介入の実施率、医薬品の利用率、出産時と新生児の合併症発症率・症例死亡率の相対危険度を算出することで検討を行う。

また上記の予備調査として、NMCHCにおいてに既存の医療記録を用い、オキシトシンによる分娩誘発／促進の実施と分娩予後との関連性について検討を行った。オキシトシンの使用適応には観察した範囲内では概ね問題はなかったが、使用および管理の方法に課題が多いことが明らかとなった。WHOの報告では、先進国における陣痛誘発／促進の20~80%に、その必要性が認められず、社会的要因(産婦の希望、医療者の都合、等)によるオキシトシンの使用が多い、とされている。一方、本調査では、医学的要因による適応が10名中9名の産婦に認められた。カンボジアNMCHCでの陣痛誘発／促進率が11%であるが、WHOの「陣痛誘発の割合が10%を越えてならない」という勧告にほぼ合致する。したがって、NMCHCでは必要以上のオキシトシンを使用をしていない可能性が示唆された。一方で、オキシトシンの使用方法と管理は極めて不適切、かつ危険な投与も観察された。したがって、今後実施する科学的根拠に基づいた出産／出生ケアの枠組みの中で、正常な分娩の理解の促進に加え、産科で多用される一般的な医療介入の原理原則を理解し、その上で介入を必要とする妊産婦に対して、それを適切な方法で実施することが、より安全かつ快適な分娩への支援につながるということが明らかとなった。

課題番号 : 24指4

研究課題名 : 医療従事者と妊産婦の関係性が出産／出生ケアの質に与える影響

主任研究者名 : 松井三明

分担研究者名 : 野口眞貴子

キーワード : 助産、カンボジア、母子保健

研究成果 :

本研究は、助産能力が強化された出産ケアを行う助産師と母子への影響を検証するものである。そのために、カンボジアで実施されている JICA 助産能力強化を通じた母子保健プロジェクトの助産能力を強化する教育プログラムの効果を測定する。本プログラムを受講した助産師と、その助産師によりケアされ出産した女性を対象に、出産ケアの提供状況やケア、助産師に対する認識、母子の健康状態を調査することで、助産モデルを組み入れた妊産婦保健対策の効果および意義を検証する。これにより、助産ケアの質の向上という妊産婦保健対策の新たな方向性を提示したい。

カンボジアで助産能力が強化された出産ケアによる助産師と母子への影響を明らかにするために、具体的には以下4点を行う。

- ① 当該フィールドにおける「助産能力の強化」ということはどのようなことかという意味を明らかにする
- ② 助産能力を強化する教育プログラムを受講した助産師を対象に、助産師としての自己認識やエビデンスに基づいたケア提供状況を明らかにする。(質問票調査・変数は測定用具参照)
- ③ 助産能力を強化する教育プログラムを受講した助産師によって出産ケアを受けた女性を対象に、助産師やケアに対する認識や母子の健康状態を明らかにする。(質問票・測定用具参照)
- ④ 要因別に分析、検討し、助産能力が強化された出産ケアがもたらす影響を明らかにする。

これまでに、上記①は終了し、その成果をもとに、当該地域において信頼性、妥当性が確保される測定用具として助産師用、女性用の質問票を開発した。北海道大学大学院保健科学研究院およびカンボジア保健省における倫理委員会での倫理的観点からの審査、承認をうけ、コンポンチャム州病院、コンポンチャム州の地方病院4か所、国立母子保健医療センターでの現地調査をすすめている。助産師は自記式質問票調査、女性には質問票を用いた聞き取り調査を行い、2014年5月末日に終了予定である。これまで収集したデータは、順次、入力作業を経てデータクリーニング、分析をデータ収集と並行して行う計画である。

Subject No. : 24-4

Title : Impact of authoritative attitude of health care providers and changes in knowledge on physiological process of birth on maternal and neonatal care outcomes in Cambodia

Researchers : Mitsuaki Matsui, Makiko Noguchi

Key word : Evidence-based care, Humanized maternity care, Women-centred care, Skilled birth attendant

Abstract : A various type of abuses is frequently observed in maternity ward in developing countries. One of our hypothesis is that it is partly due to an unsymmetrical relationship between health care providers and clients. Authoritative attitude of health care providers is very commonly observed in many countries. In addition, because of insufficient professional training system, especially in the undergraduate period, in developing countries, most health care providers do not have appropriate knowledge on physiology and anatomy. Birth is basically in physiological process, though certain percentages of women develop complications. However, current world strategy in maternal health is formulated as “every pregnancy faces risk”. It facilitates health care providers to carry out “medical interventions”, even they do not have sufficient knowledge and skills to assess physiological process of birth. As a result of these complex situations above, there is an epidemic of unnecessary medical interventions for maternity care.

This research intends to measure changes in 1) medical interventions, 2) maternal and neonatal outcomes, and 3) relationship between health care providers and women after introduction of “women-friendly maternity care” in Cambodia. This idea was introduced by the Japanese technical cooperation project since the year 2010.

For the first two objectives, we apply randomized controlled trial design. Ten health centers are recruited from Phnom Penh city (capital in Cambodia) and randomly divided into two groups: intervention and control. The intervention group will receive a series of training courses of "women-friendly care", the other arm will not. Intensive follow-up and supervisions will be continued until the end of year 2014, then comparative measurement will be carried out during January and March 2015.

For the objective three, we will assess the effects of women friendly midwifery care from two perceptions, one is care midwives' and the other is women's perception who received midwifery care. The results of this survey will show the outcome of women friendly care explicitly. The study will carry out at the NMCHC located in Phnom Penh and provincial hospital and referral hospitals in Kampong Cham Province. This sampling is available sampling. The care providers working at these sites have attended the JICA workshops on woman and baby friendly childbirth care based on evidence. For this reason, these study sites are appropriate to clarify the outcome of the women friendly care. The midwives who are working for these hospitals are respondents of the questionnaire. The sample size is about 100 midwives. And women who give birth at these study sites are also respondents of this questionnaire survey for women.

Researchers には、分担研究者を記載する。

課題番号 24指4

カンボジアにおける医療従事者と妊産婦の関係性変化および正常分娩の理解の促進が出産／出生ケアに与える影響

研究班全体の概要

開発途上国での出産では、

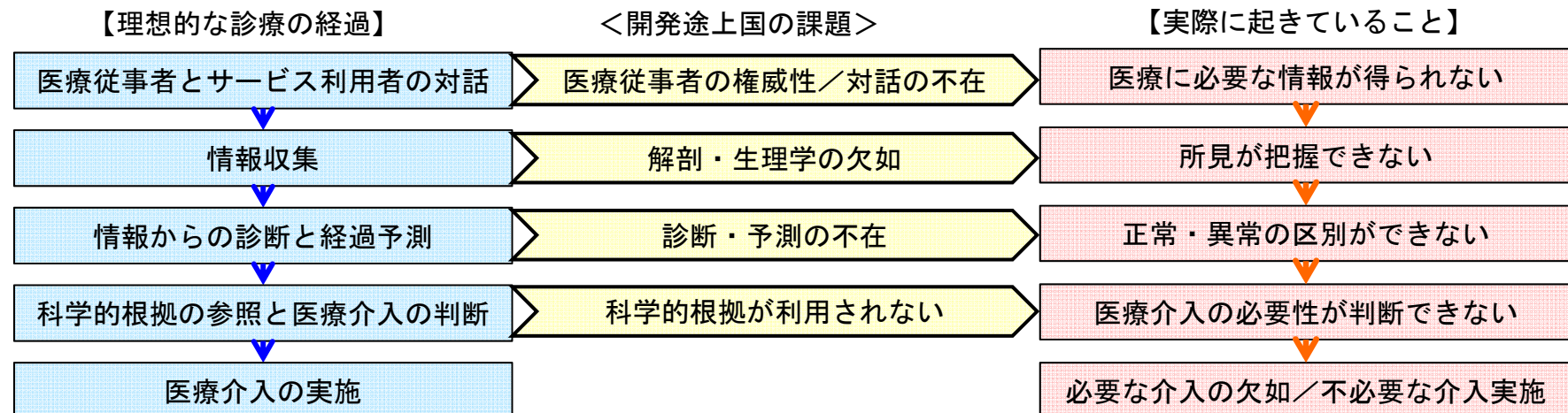
(1) 医療従事者が

- 分娩の生理的・解剖学的経過を知らない、
- 利用者に対し権威的であるために、

(2) そのため必要な医療が適時に行われず、 また不必要な医療が実施され、結果として母児に悪影響を与えている可能性がある。

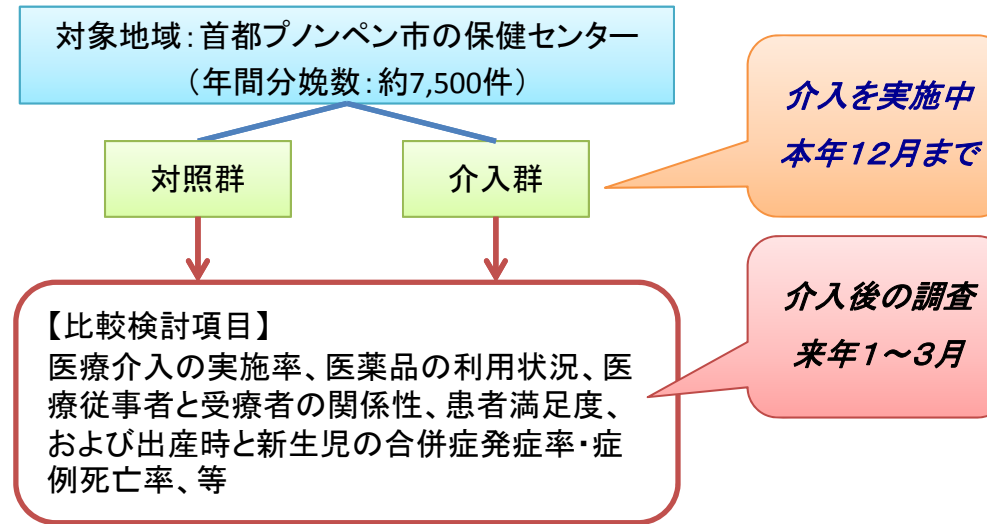
本研究は、カンボジアで上述の課題を克服する介入（研修と適切なフォローアップの実施）により、以下の事項の変化を検証する実験研究である。

- 医療介入の量と質
- 医療従事者の出産ケアに対する懸念
- 利用者に対する共感の程度
- 妊産婦と新生児の健康

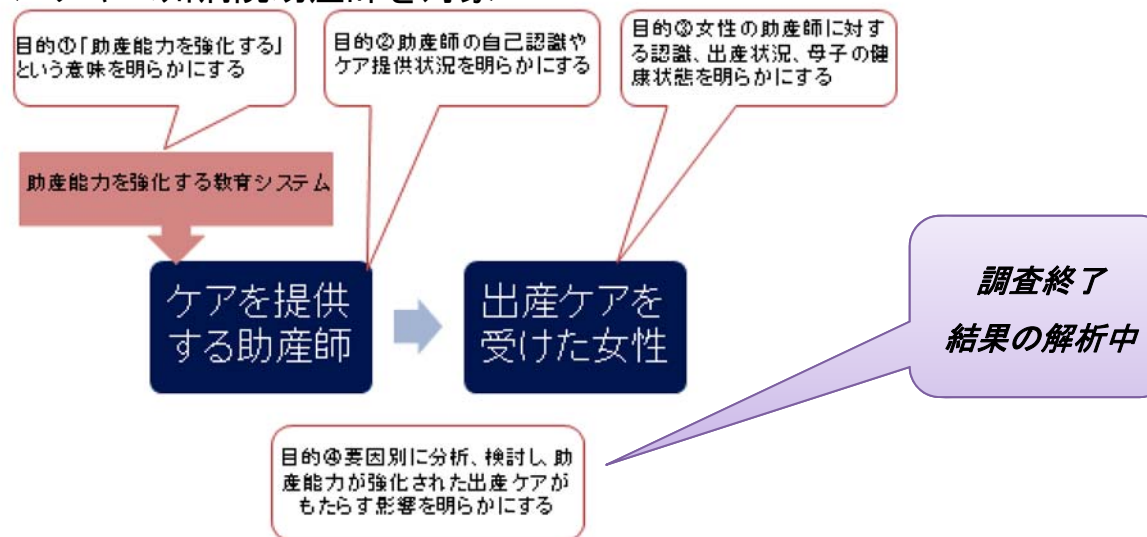


研究の計画と実施状況

(1) 量的調査



(1) 質的調査 ~ コンポンチャム州病院助産師を対象



研究発表及び特許取得報告について

課題番号：24-4

研究課題名：カンボジアにおける医療従事者と妊産婦の関係性変化および正常分娩の理解の促進が
出産／出生ケアに与える影響

主任研究者名：松井三明

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
参与観察とインタビューを用いた国際協力プロジェクトのためのフィールド調査—JICAカンボジア国助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクトにおける調査から—	野口真貴子, 小山内泰代	第27回日本国際保健医療学会学術大会	岡山県岡山市	2012年11月
カンボジア王国における病院勤務助産師の分娩期ケア—JICAカンボジア国助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクトにおける調査より—	野口真貴子, 小山内泰代	第77回日本民族衛生学会総会	東京都新宿区	2012年11月
Midwifery to improve maternal and child health for global health	Noguchi, M.	FHS International Conference: Evolving Health Sciences in Asia	北海道札幌市	2013年7月
カンボジア王国における助産能力を強化するコア・トレーナーの認識	野口真貴子, 松井三明, 堀越洋一, 川口みどり, 小長井祥子, 竹原健二, 小山内泰代	第28回日本国際保健医療学会学術大会	沖縄県名護市	2013年11月
カンボジアでの研究	野口真貴子	国際保健研究会	東京都国立市	2014年4月
The Connotation of “Women-Friendly Care” in Cambodia	Noguchi M, Osanai Y, Kawaguchi M, Konagai S	International Confederation of Midwives 30th Triennial Congress	チェコ、プラハ市	2014年6月
カンボジア王国における “women-friendly care” の測定用具の開発	野口真貴子	第13回日本ウーマンズヘルス学会学術集会	東京都新宿区	2014年7月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。
 ※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。